フルスペック ATS-P の保守性向上

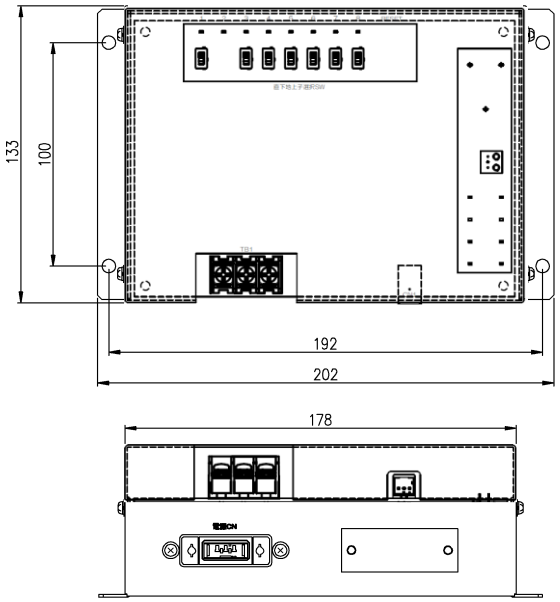
ATS-P レピーター故障個所検出器

要約

秋田新在線など沿線情報伝送装置（沿情）が設備されていない個所では、ATS-P 地上子故障発生時、複数の地上子のうち何れかが故障した場合は定常監視装置（信号通信指令）で故障が知得できる。しかし、現状は「地上子故障」一括で故障が出力されるため、どの地上子が故障しているかは現場を調査しなければ把握できないという課題がある。

そこで緊急出動の有無の判断基準となる**「故障した地上子が直下地上子か直下以外か」を判断**し、どちらの地上子が故障したかを定常監視装置に出力する**【ATS-P レピーター故障個所検出器（製品名「RP 故障検出器）】**を開発する。

特長



- Ⅳ形 MT ブロックやⅤ形沿情伝送部の実装スペースに無加工で取付可能。
  （既設置の MT ブロック等との交換も可能）
- 直下地上子としての設定は、RP1～8 までの任意の地上子を複数個設定可能
  （副本線等直下地上子が複数あっても OK）
- 故障出力は【直下地上子故障】【直下地上子以外故障】の 2 点を接点出力
- 基本はⅤ形用ですが、別途伝送変換器の実装が可能となっており、伝送変換器を実装することで、Ⅳ形以前でも使用可能

主な仕様

項目		性能
使用場所		機器室内または現場器具箱内（符号処理器取付）
外形寸法		(幅)192mm×(高さ)80mm 以下×(奥行)133mm（沿情伝送部相当）
周囲温度		−10℃～+60℃
相対湿度		90%以下
入出力	対符号処理器入力	19.2kBPS　RS-485 信号×1ch
	対定常監視出力	N 接点×2 点（直下故障／直下以外故障）
電源		AC110V　5W 以下

本製品は　秋田事業本部 信号通信技術 UT 様より受託、開発中です
（特願 2026-003719 特許出願中）